

【大阪の歴史散歩】

適 塾 跡

淀屋橋から南東へ、北浜から南西へ5分ばかりの所に【史跡緒方洪庵旧宅および塾】の江戸期の町家風の建物が目につく。

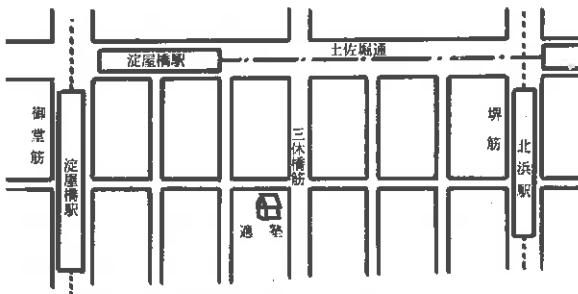
適塾は洋学研究の第一人者であった緒方洪庵によって開かれた蘭学塾である。ここでは越前が生んだ幕末の思想家橋本左内、明治の啓蒙思想家で慶応大学の祖である福沢諭吉、長州出身で近代軍隊制度の創設に尽力した大村益次郎など後世の偉人たちが学んだ。

適塾の建物は国の重要文化財に指定されているが、構造は木造2階建てで、470㎡の敷地に1階は玄関、書斎、応接間、教室が2室、客座敷に土間には前栽、蔵が設けられ、2階には大部屋が2室のほかに、長崎出身のオランダ商館長ゾーフがハルマの蘭仏辞書をもとに作成した蘭和辞書が置かれた「ゾーフの部屋」があり、塾生たちが学習に

励んだ様子が、福沢諭吉の『福翁自伝』にも紹介されている。

現在の建物は、1843年（天保14年）に洪庵が購入したもので、1940年には大阪府の、翌年国の史跡になり、1942年には大阪大学に寄贈され、以後はその管理のもとにある。1964年には国の重要文化財に指定され、現在は一般公開もされている。

内部は日・月曜日、祝日を除き見学できる。



【編集後記】

- ♣ 梅雨空が続いている。「蒸し暑い」「うっとうしい」とボヤク前に、この水の恵みがあり、真夏の日照があって、はじめておいしい米が収穫される秋を迎えることになる。冷害に強い米を、日本人の味覚にあった米を、月日が経っても味の変わらない米を、放射線を手段として作り出せたら大きな夢の前進が考えられるが。
- ♠ RADIOISOTOPES誌によると、高校在学中に原子力発電について授業で教わったのは僅か

19.1%の低率で、あとはテレビが大きな情報源であるとのこと。高校教育における物理学離れ現象が顕著であるらしいが、受験科目の選択方法が原因なのか、はたまた、将来社会に出ても技術系職業を忌避する傾向の現われか。いずれにしても、何らかの形で、初等教育からニュークリアサイエンスをカリキュラムに取り入れておかないと、やがては電灯の消える時が来るのではないかと飛躍した心の痛め方をしている。